

水泳競技実施要項

1. 主催 熊本高等専門学校（八代キャンパス）
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟
2. 主管 九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟水泳競技専門部
（一社）熊本県水泳協会
3. 後援 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、八代市、八代市教育委員会、熊本日日新聞社、RKK、TKU、KKT、KAB
4. 期日 令和4年7月2日（土）
（公式練習 7月1日（金）13時00分～17時00分）
5. 会場 熊本市総合屋内プール（アクアドームくまもと）（熊本市南区荒尾2-1-1）
6. 参加人員 監督1名、コーチ1名以内、マネージャー1名以内、ほか各種目別出場選手
7. 種目及び基準記録

男子 14種目

種目	距離	基準記録
自由形	50m	0' 36"
	100m	1' 17"
	200m	2' 54"
	400m	7' 01"
	800m	16' 45"
背泳ぎ	100m	1' 35"
	200m	3' 09"
平泳ぎ	100m	1' 31"
	200m	3' 31"
バタフライ	100m	1' 35"
	200m	3' 26"
個人メドレー	200m	3' 19"
リレー	4×100m	
メドレーリレー	4×100m	

女子 8種目

種目	距離
自由形	50m
	100m
背泳ぎ	100m
平泳ぎ	100m
バタフライ	100m
個人メドレー	200m
リレー	4×50m
メドレーリレー	4×50m

8. 競技規則 2022年（公財）日本水泳連盟競泳競技規則による。

9. 競技方法

- (1) 学校対抗とする。（女子も加点の対象とする。）
- (2) 個人の種目、女子4×50mリレー及び女子4×50mメドレーリレーは1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点とし、リレー種目（女子4×50mリレー及び女子4×50mメドレーリレーを除く）は1位16点、2位14点、3位12点、4位10点、5位8点、6位6点、7位4点、8位2点の得点とする。
- (3) 最多得点校を優勝とする。同点の場合は、次の順序に従って決定する。
 - ア リレーによる得点の多い学校
 - イ 入賞者数の多い学校
 - ウ 1位の数の多い学校
 - エ 2位の数の多い学校、以下8位まで同じ。

10. 出場資格及び制限

- (1) 1人2種目以内（リレーを除く。）とする。
- (2) 1種目各校2名以内とする。
- (3) 男子4×100mメドレーリレー、男子4×100mリレー、女子4×50mリレー、女子4×50mメドレーリレーの出場は各校1チーム以内とする。
- (4) 種目別選手は、日本水泳連盟の競技者登録・エントリーシステムであるWeb-SWMSYSに登録した参加申込書記載の選手以外からは認めない。

11. 注意事項・その他

- (1) 予選及び決勝のみ行う個人種目の組合せ及びレーン順は、エントリーにおける記録を参考にして、担当校において決定する。ただし、予選を行う種目の中で、参加選手が1組以内の場合は、予選を行わず決勝のみとする。
- (2) 予選を行う個人種目については、タイムレースにより予選を行う。予選は使用プールのフルレーンを用いることができる。予選により、決勝進出者8名を選出する。
- (3) 予選において同記録の入選資格者が出た場合は、抽選により決定する。決勝では同着とする。
- (4) 個人種目である男子200m個人メドレー、男子400m自由形、男子800m自由形、男子200mバタフライ、及びすべての女子種目は、予選を行わず決勝のみとし、タイムレースで行う。
- (5) 団体種目である、男子4×100mメドレーリレー、男子4×100mリレー及び女子4×50mリレー、女子4×50mメドレーリレーは予選を行わず決勝のみとし、タイムレースとする。オーダーは試合当日の決められた時間内に提出すること。
- (6) 選手は招集所に競技開始の20分前までに必ず集合し、点呼を受けること。ただし、他の出場種目の都合により集合が困難な場合、競技進行状況が予定と異なる場合、あるいは長い休憩時間のある場合は、通告員の指示に従うこと。
- (7) レーンナンバーは、50mプールにおける50m種目を除き、スタート側からプールに向かって右側を第1レーンとする。10レーンのプールにおいては第0レーンとする。
- (8) 決勝におけるレーンは、予選の記録の最も良い者を、奇数レーンのプールでは中央のレーンに、8レーンおよび10レーンのプールでは第4レーンに配置し、2番目に良い記録の者をその左側にし、以下右・左と交互に配置する。ただし50mプールにおける50m種目において折り返し側からスタートする場合は、最も記録の良い者の右側に2番目に良い記録の者を配置し、以下左・右と交互に配置する。具体的には、最も良い記録の者のレーン番号に1を加えたレーンを、2番目に良い記録の者のレーンとする。
- (9) 選手紹介の時は椅子から立ち上がり、一步前に出ること。
- (10) スタートは出発合図員の「Take your mark」のコールでただちに構え、出発の合図がなるまで静止すること。
- (11) FINA承認マークのついている水着を着用すること。
- (12) 大会参加に際して提供される個人情報情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的には利用しない。
- (13) 別紙公益財団法人日本水泳連盟が定める「水泳競技会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を遵守すること。
また、大会会場の新型コロナウイルス感染拡大防止対策方針に従い、感染拡大防止に最善を尽くすこと。

水泳競技会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン

令和2年6月15日
(公財)日本水泳連盟

【はじめに】

本ガイドラインは、スポーツ庁が作成した「社会体育施設の再開に向けた感染防止予防ガイドライン：令和2年5月25日改訂」、公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本障がいスポーツ協会が作成した「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン：令和2年5月29日改定」を参考に作成しました。

水泳競技会の再開に当たっては、水泳場が立地する都道府県の方針に従うことが大前提です。下記に「主催者・施設管理者が実施すべき事項」「選手・監督・コーチが順守すべき事項」を記載しました。それぞれの内容は、ひとつの例として参考にさせていただく事項であり、水泳場の特性・環境により、施設管理者と連携して必要な取り組みを適宜付加し、安全な競技会運営を目指していただきます。

このように、水泳場の特性・環境に合わせて付加されたチェックリストを「見える化」にし、大会ホームページ、水泳場内の掲示を通して周知・徹底を図ってください。さらに、各事項がきちんと順守されているか、施設内を定期的に巡回・確認し、主催者および施設管理者だけでなく、入場者および関係者全員が感染拡大防止のために取り組むことが重要です。

【主催者・施設管理者が実施すべき事項】

1. 要項の準備について

- (1) 競技会要項・二次要項等で、感染拡大予防に関する下記の周知を行う。
入館前2週間において以下の事項に該当する場合は、入館の見合わせを求めること。
 - ・ 平熱を超える発熱
 - ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪の症状
 - ・ だるさ（倦怠感）息苦しさ（呼吸困難）
 - ・ 臭覚や味覚の異常
 - ・ 体が重たく感じる、疲れやすい等の症状
 - ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 入場者の健康管理に関する「健康チェック表」を、事前に記入できるよう準備する。
- (3) 「健康チェック表」の管理方法・保管期間について確認する。
- (4) インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付を策定し、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるよう、事前に準備する。

2. 施設の準備、対応について

- (1) 【選手・監督・コーチが順守すべき事項】および【主催者・施設管理者が実施すべき事項】について、施設内の適切な場所に掲示する。
- (2) 入場・待機・受付時の対応
 - ① 「選手の時間差入場」「待機人数の削減」「人との距離を考慮した目印」「競技役員と選手の入退場動線を分ける」等、密になる状況を避ける対策をとる。
 - ② 障がい者や高齢者など、入場者の特性に配慮して対応する。
 - ③ 「マスクの着用」「大声での会話」「対面姿勢での会話」等について注意する。
 - ④ 入場時に手指消毒液を使用させ、「健康チェック表」を確認し受理する。
 - ⑤ 必要に応じて非接触体温計を使用して発熱者を特定し、入場を制限する。
 - ⑥ 受付では、アクリル板・透明ビニールカーテン・手袋等を準備して対応する。

(3) 洗面所・手洗い場所

- ① 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。
- ② 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- ③ 手洗い後に使用するペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意する。（利用者にマイタオルの持参を求めてもよい。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする）
- ④ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意する。
- ⑤ トイレの蓋を閉めてから汚物を流すよう表示する。

(4) 更衣室・招集所・招集所前の待機スペース

- ① 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避ける。（障がい者の介助を行う場合を除く）
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置をとる。
- ③ 招集所内の椅子の間隔を保ち、対面姿勢とならないように配置する。
- ④ 招集所・招集所前の待機スペースでは、最少人数での選手待機とする。
- ⑤ 室内またはスペース内で複数の入場者が触れると考えられる場所（ドアノブ・ロッカーの取手・テーブル・椅子等）については、こまめに消毒する。
- ⑥ 換気扇を常に回す、出入り口のドアは開放する、換気用の窓をあける等、換気に配慮する。
- ⑦ 招集所入口にアルコール等の手指消毒用薬を用意する。
- ⑧ 招集デスクでは、アクリル板・透明ビニールカーテン・手袋等を準備して対応する。
- ⑨ 更衣室のロッカーの使用は、利用後の消毒が都度可能な場合を除き、使用禁止とする。
- ⑩ ドライヤーはエアロゾルが発生する恐れがあるため使用禁止とする。
- ⑪ 招集所でもマスクを着用させるが、招集所からプールに出るときはマスクを外して、服内のポケットか袋に入れさせる。（マスクは選手イス・脱衣ボックスに直接置かない）
- ⑫ 招集所では案内板等を活用し、競技役員の指示は必要最低限とする。

(5) 練習時の対応

- ① 朝の練習時は、チームごとに「時間帯を分ける」「使用レーンを分ける」など、密な状況を避ける対策をとる。
- ② 「各レーン内で待機する場合」「スタート練習で並ぶ場合」は、少なくとも1m以上の間隔を保つ、会話をしない等の指示をする。
- ③ 決勝競技前の練習では、決勝進出者の使用に限定するなどの対策をとる。
- ④ 選手に対して、泳ぐとき以外のマスク着用を周知する。
- ⑤ 唾や痰を吐くことは極力行わない。
- ⑥ コーチの大声での指導、ホイッスルの使用、コーチ同士の会話を控えるよう周知する。

(6) 選手控え場所、観客席の対応

- ① 選手控え場所の適切な場所に、アルコール等の手指消毒用薬を準備する。
- ② 選手控え場所はゆとりをもって設置し、トレーナーズベッドを置く場合は、3密を回避した状態で、各チームの待機場所とする。感染防止対策を十分に行った上で、トレーナー活動を行うことは可能とする。 ※「トレーナー活動について」を参照
- ③ 観客席に観客も入場させる場合には、使用できる観客席の数を減らすなどの対応をとる。
- ④ マスクの着用、大声での応援や会話を控えることを周知する。

(7) 換気・水質

- ① 換気設備を適切に運転し、定期的に窓を開けて外気を取り入れる等の換気も行う。外気換気は循環空調とは異なることに注意する。
- ② プールの水質基準を適切に管理するなど、関係法令等に従う。

(8) ゴミの廃棄

- ① 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人

は、マスクや手袋を着用する。

- ② マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒をする。

(9) 清掃・消毒

- ① 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃する。
- ② 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、入場前・退場後に清拭消毒する。

(10) 医務室の準備

- ① 十分な広さのある医務室を確保し、医師・保健師・看護師のいずれかを医務室に常駐させる。常駐が難しい場合は、医師・保健師・看護師にすぐに連絡がとれる体制にし、発熱者が発生した場合などに適切な対応ができるようにする。
- ② 医療用個人防護具（フェイスシールド・ゴーグル・手袋・マスク・白衣など）を準備し、救護者や体調不良者の対応にはこれらを着用して行う。
- ③ 発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントなどを確保する。（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションなどで仕切ったコーナーを用意する）

(11) トレーナー活動について

- ① 大会側運営によるトレーナーブースの設営は、原則行わない。会場内におけるチームや個人選手付トレーナーの活動に関して、用手接触を伴うマッサージやパートナーストレッチなどは禁止とする。
- ② 運動指導や救急対応（アスレティックトレーナーの行うテーピング等）は、3密を回避した状態で、感染対策を十分に行ったうえで対応可能とする。

(12) 飲食について

- ① 選手および役員が食事を摂取する際には個別に摂取する。やむを得ない場合には十分な距離をとり、対面しないように摂取する。また食事時の会話は控えるようにする。
- ② 食事を摂取する場所が限定され人が密集しないように、屋外も含めた多くの場所で摂取できるように配慮する。対面式のテーブルなどでは、一方向のみの使用とするかパーテーション等の使用を検討する。

(13) 開会式・閉会式・表彰式について

- ① 3密を回避した方法であれば実施可能とするが、できる限り短時間で行う。
- ② 人との距離を十分に保ち、選手・プレゼンターは可能な限りマスクを着用する。
- ③ メダル・賞状の贈呈はよいが握手は行わない。
- ④ 記念撮影時にはマスクを外しても構わないが、会話は控える。

(14) 競技終了後

- ① チーム全体で退館するのではなく、自分のレース終了後に個々に退館する。
- ② ミーティング・懇親会等は行わないよう周知する。

3. 競技役員について

- (1) 打ち合わせ事項については、インターネット等で事前に周知する。
- (2) 当日の打ち合わせは必要最低限とし、掲示板等を活用する。
- (3) 注意事項については、競技役員控え場所に掲示する。
- (4) 競技役員椅子の配置（審判長・出発・泳法・折返・計時・記録・通告等）については、椅子の間隔を保つよう設置する。
- (5) 本部席の配置と仕切り（アクリル板・透明ビニールカーテン等）の対策をとる。
- (6) 競技役員交代時の待機は短時間とし、密とならないようにする。
- (7) 競技役員の交代時に、トランシーバー・半自動グリップ・ストップウォッチ・マイクなどの消毒を行う。

4. 全般的な対応

- (1) チェックリストについて、順守されているか定期的に巡回・確認する。

- (2) 必要な取り組みを適宜付加し、場内アナウンス・電光表示等で徹底を図る。
- (3) 障がい者や高齢者など、利用者の特性に配慮する。
- (4) 退場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告するよう周知する。報告後の対応については、施設管理者・自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく。

【選手・監督・コーチが順守すべき事項】

1. 入館前

- (1) 入館前2週間において、以下の事項に該当する場合は、入館を見合わせることに。
 - ・ 熱を超える発熱
 - ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪の症状
 - ・ だるさ（倦怠感）息苦しさ（呼吸困難）
 - ・ 臭覚や味覚の異常
 - ・ 体が重たく感じる、疲れやすい等の症状
 - ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 「健康チェック表」に必要事項を記入し、持参すること。
- (3) 水泳用具・飲食物・ストレッチマット等は、専用の物を用意し共用しないこと。
- (4) 会場までの交通機関内で、マスクの着用、人との距離、座席間の距離、車内換気、会話などに留意すること。

2. 水泳場

- (1) 入館から退館時までの全ての場面で、人との距離（できるだけ2m以上）をとって行動すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- (2) 練習時に、各レーン内で待機する場合、スタート練習で並ぶ場合も距離を保つこと。
- (3) 選手控え場所・観覧席で、人との距離・座席間の距離を保つこと。
- (4) チームごとに、選手控え場所・観覧席の人数制限を周知し、徹底すること。
- (5) トレーナーズベッドは、許可された場合のみ、指定された場所で使用できる。
- (6) 泳ぐとき以外はマスクを着用すること。（更衣室・招集所・選手控え場所・観覧席・プールサイド・トイレなど）
- (7) レース前にはずしたマスクは、服のポケットか袋に入れること。（マスクは、選手イス・脱衣ボックスに直接置かない）
- (8) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- (9) 選手は、招集所での選手間の会話、レース後の選手間の会話を控えること。
- (10) 大きな声での会話や応援をしないこと。コーチは、練習時の大きな声での指示、ホイッスルの使用を控えること。
- (11) 唾や痰を吐くことは極力行わないこと。
- (12) 飲食については、指定場所以外で行わないこと。
- (13) ドリンクの回し飲みはしないこと。
- (14) 飲みきれなかったドリンクを、指定場所以外に捨てないこと。
- (15) 選手は、自分のレース終了後、なるべく速やかに退館すること。
- (16) ミーティング等は控えること。
- (17) 競技会主催者・施設管理者が決めたその他の措置・指示について従うこと。

3. 退館後

- (1) 退館後2週間以内に「新型コロナウイルス感染症を発症した」場合は、競技会担当者に対して、濃厚接触者の有無等について報告すること。

水泳競技会の再開時の感染拡大防止策チェックリスト

【主催者・施設管理者が実施すべき事項】

1. 要項の準備について

- 競技会要項・二次要項等で、感染拡大予防に関する下記の周知を行う。
入館前2週間において以下の事項に該当する場合は、入館の見合わせを求めること。
 - ・ 平熱を超える発熱
 - ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪の症状
 - ・ だるさ（倦怠感）息苦しさ（呼吸困難）
 - ・ 臭覚や味覚の異常
 - ・ 体が重たく感じる、疲れやすい等の症状
 - ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
- 入場者の健康管理に関する「健康チェック表」を、事前に記入できるよう準備する。
- 「健康チェック表」の管理方法・保管期間について確認する。
- インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付を策定し、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるよう、事前に準備する。

2. 施設の準備、対応について

- 【選手・監督・コーチが順守すべき事項】および【主催者・施設管理者が実施すべき事項】について、施設内の適切な場所に掲示する。
- 入場・待機・受付時の対応
 - ① 「選手の時間差入場」「待機人数の削減」「人との距離を考慮した目印」「競技役員と選手の入退場動線を分ける」等、密になる状況避ける対策をとる。
 - ② 障がい者や高齢者など、入場者の特性に配慮して対応する。
 - ③ 「マスクの着用」「大声での会話」「対面姿勢での会話」等について注意する。
 - ④ 入場時に手指消毒液を使用させ、「健康チェック表」を確認し受理する。
 - ⑤ 必要に応じて非接触体温計を使用して発熱者を特定し、入場を制限する。
 - ⑥ 受付では、アクリル板・透明ビニールカーテン・手袋等を準備して対応する。
- 洗面所・手洗い場所
 - ① 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。
 - ② 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
 - ③ 手洗い後に使用するペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意する。（利用者にマイタオルの持参を求めてもよい。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする）
 - ④ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意する。
 - ⑤ トイレの蓋を閉めてから汚物を流すよう表示する。
- 更衣室・招集所・招集所前の待機スペース
 - ① 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避ける。（障がい者の介助を行う場合を除く）
 - ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置をとる。
 - ③ 招集所内の椅子の間隔を保ち、対面姿勢とならないように配置する。
 - ④ 招集所・招集所前の待機スペースでは、最少人数での選手待機とする。
 - ⑤ 室内またはスペース内で複数の入場者が触れると考えられる場所（ドアノブ・ロッカーの取手・テーブル・椅子等）については、こまめに消毒する。

- ⑥ 換気扇を常に回す、出入り口のドアは解放する、換気用の窓をあける等、換気に配慮する。
- ⑦ 招集所入口にアルコール等の手指消毒用薬を用意する。
- ⑧ 招集デスクでは、アクリル板・透明ビニールカーテン・手袋等を準備して対応する。
- ⑨ 更衣室のロッカーの使用は、利用後の消毒が都度可能な場合を除き、使用禁止とする。
- ⑩ ドライヤーはエアロゾルが発生する恐れがあるため使用禁止とする。
- ⑪ 招集所でもマスクを着用させるが、招集所からプールに出るときはマスクを外して、服内のポケットか袋に入れさせる。（マスクは選手イス・脱衣ボックスに直接置かない）
- ⑫ 招集所では案内板等を活用し、競技役員の指示は必要最低限とする。

□ 練習時の対応

- ① 朝の練習時は、チームごとに「時間帯を分ける」「使用レーンを分ける」など、密な状況を避ける対策をとる。
- ② 「各レーン内で待機する場合」「スタート練習で並ぶ場合」は、少なくとも1m以上の間隔を保つ、会話をしない等の指示をする。
- ③ 決勝競技前の練習では、決勝進出者の使用に限定するなどの対策をとる。
- ④ 選手に対して、泳ぐとき以外のマスク着用を周知する。
- ⑤ 唾や痰を吐くことは極力行わない。
- ⑥ コーチの大声での指導、ホイッスルの使用、コーチ同士の会話を控えるよう周知する。

□ 選手控え場所、観客席の対応

- ① 選手控え場所の適切な場所に、アルコール等の手指消毒用薬を準備する。
- ② 選手控え場所はゆとりをもって設置し、トレーナーズベッドを置く場合は、3密を回避した状態で、各チームの待機場所とする。感染防止対策を十分に行った上で、トレーナー活動を行うことは可能とする。 ※「トレーナー活動について」を参照
- ③ 観客席に観客も入場させる場合には、使用できる観客席の数を減らすなどの対応をとる。
- ④ マスクの着用、大声での応援や会話を控えることを周知する。

□ 換気・水質

- ① 換気設備を適切に運転し、定期的に窓を開けて外気を取り入れる等の換気も行う。外気換気は循環空調とは異なることに注意する。
- ② プールの水質基準を適切に管理するなど、関係法令等に従う。

□ ゴミの廃棄

- ① 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
- ② マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒をする。

□ 清掃・消毒

- ① 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃する。
- ② 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、入場前・退場後に清拭消毒する。

□ 医務室の準備

- ① 十分な広さのある医務室を確保し、医師・保健師・看護師のいずれかを医務室に常駐させる。常駐が難しい場合は、医師・保健師・看護師にすぐに連絡がとれる体制にし、発熱者が発生した場合などに適切な対応ができるようにする。
- ② 医療用个人防护具（フェイスシールド・ゴーグル・手袋・マスク・白衣など）を準備し、救護者や体調不良者の対応にはこれらを着用して行う。
- ③ 発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントなどを確保する。（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションなどで仕切ったコーナーを用意する）

□ トレーナー活動について

- ① 大会側運営によるトレーナーブースの設営は、原則行わない。会場内におけるチームや個人選手付トレーナーの活動に関して、用手接触を伴うマッサージやパートナーストレッチな

どは禁止とする。

- ② 運動指導や救急対応（アスレティックトレーナーの行うテーピング等）は、3密を回避した状態で、感染対策を十分に行ったうえで対応可能とする。

□ 飲食について

- ① 選手および役員が食事を摂取する際には個別に摂取する。やむを得ない場合には十分な距離をとり、対面しないように摂取する。また食事中的会話は控えるようにする。
② 食事を摂取する場所が限定され人が密集しないように、屋外も含めた多くの場所で摂取できるように配慮する。対面式のテーブルなどでは、一方向のみの使用とするかパーティション等の使用を検討する。

□ 開会式・閉会式・表彰式について

- ① 3密を回避した方法であれば実施可能とするが、できる限り短時間で行う。
② 人との距離を十分に保ち、選手・プレゼンターは可能な限りマスクを着用する。
③ メダル・賞状の贈呈はよいが握手は行わない。
④ 記念撮影時にはマスクを外しても構わないが、会話は控える。

□ 競技終了後

- ① チーム全体で退館するのではなく、自分のレース終了後に個々に退館する。
② ミーティング・懇親会等は行わないよう周知する。

3. 競技役員について

- 打ち合わせ事項については、インターネット等で事前に周知する。
□ 当日の打ち合わせは必要最低限とし、掲示板等を活用する。
□ 注意事項については、競技役員控え場所に掲示する。
□ 競技役員椅子の配置（審判長・出発・泳法・折返・計時・記録・通告等）については、椅子の間隔を保つよう設置する。
□ 本部席の配置と仕切り（アクリル板・透明ビニールカーテン等）の対策をとる。
□ 競技役員交代時の待機は短時間とし、密とならないようにする。
□ 競技役員の交代時に、トランシーバー・半自動グリップ・ストップウォッチ・マイクなどの消毒を行う。

4. 全般的な対応

- チェックリストについて、順守されているか定期的に巡回・確認する。
□ 必要な取り組みを適宜付加し、場内アナウンス・電光表示等で徹底を図る。
□ 障がい者や高齢者など、利用者の特性に配慮する。
□ 退場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告するよう周知する。報告後の対応については、施設管理者・自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく。

水泳競技会の再開時の感染拡大防止策チェックリスト

【選手・監督・コーチが順守すべき事項】

1. 入館前

- 入館前2週間において、以下の事項に該当する場合は、入館を見合わせる事。
・平熱を超える発熱
・咳（せき）、のどの痛みなどの風邪の症状
・だるさ（倦怠感）息苦しさ（呼吸困難）
・臭覚や味覚の異常
・体が重たく感じる、疲れやすい等の症状
・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合

- 「健康チェック表」に必要事項を記入し、持参すること。
- 水泳用具・飲食物・ストレッチマット等は、専用の物を用意し共用しないこと。
- 会場までの交通機関内で、マスクの着用、人との距離、座席間の距離、車内換気、会話などに留意すること。

2. 水泳場

- 入館から退館時までの全ての場面で、人との距離（できるだけ2 m以上）をとって行動すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 練習時に、各レーン内で待機する場合、スタート練習で並ぶ場合も距離を保つこと。
- 選手控え場所・観覧席で、人との距離・座席間の距離を保つこと。
- チームごとに、選手控え場所・観覧席の人数制限を周知し、徹底すること。
- トレーナーズベッドは、許可された場合のみ、指定された場所で使用できる。
- 泳ぐとき以外はマスクを着用すること。（更衣室・招集所・選手控え場所・観覧席・プールサイド・トイレなど）
- レース前にはずしたマスクは、服のポケットか袋に入れること。
（マスクは、選手イス・脱衣ボックスに直接置かない）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- 選手は、招集所での選手間の会話、レース後の選手間の会話を控えること。
- 大きな声での会話や応援をしないこと。コーチは、練習時の大きな声での指示、ホイッスルの使用を控えること。
- 唾や痰を吐くことは極力行わないこと。
- 飲食については、指定場所以外で行わないこと。
- ドリンクの回し飲みはしないこと。
- 飲みきれなかったドリンクを、指定場所以外に捨てないこと。
- 選手は、自分のレース終了後、なるべく速やかに退館すること。
- ミーティング等は控えること。
- 競技会主催者・施設管理者が決めたその他の措置・指示について従うこと。

3. 退館後

- 退館後2週間以内に「新型コロナウイルス感染症を発症した」場合は、競技会担当者に対して、濃厚接触者の有無等について報告すること。